

新旧のジョン・ウィリアムズの名曲が勢揃い

彼が担当したお馴染み人気映画『インディ・ジョーンズ』、『ハリー・ポッター』、『ジュラシック・パーク』、『E.T.』、『ホームアローン』などの名曲に加え、初のアカデミー受賞作品の『屋根の上のヴァイリン弾き』、そして普段コンサートではあまり演奏されない『ジェーン・エア』、『タワーリング・インフェルノ』、『A.I.』、『ブラック・サンデー』などの隠れた名曲をはじめ、新作のスピルバーグ監督とのコラボ作品『リンカーン』、『戦火の馬』の2曲、2015年に新しい『スターウォーズ』が公開されるのを記念して、シリーズ全6作品の名曲をそれぞれオリジナル・スコアを使ってお送りします。

■ジョン・ウィリアムズ(作曲) John Williams(Composer)

1932年2月8日ニューヨーク州生まれ。

ジュリアード音楽院のピアノ科を卒業後、ジャズ・ピアニストとして自らの楽団を結成。後にハリウッドに渡り、スタジオ・ミュージシャンとして、映画会社のオケで働いた。この時期、ヘンリー・マンシーニ・オーケストラのピアニストとしても働き、マンシーニの『ピーターガン』や『ティファニーで朝食を』『ピンク・パンサー』などのサントラ録音にも参加している。作曲家の手伝いをしていっているうちに、次第に自分も手掛けるようになり、60年代にTVでの仕事に参加、『宇宙家族ロビンソン』『タイム・トンネル』『巨人の惑星』などの人気番組を担当した。その時のプロデューサーのアーウィン・アレンの招きで『タワーリング・インフェルノ』や『ポセイドン・アドベンチャー』に起用され、“パニック映画の巨匠”と呼ばれるようになる。71年には、『屋根の上のヴァイオリン弾き』で、初のオスカーとなるアカデミー編曲賞を受賞した。73年にスピルバーグの劇場映画の第1作目の『続・激突!カージャック』で音楽を担当し、2作目の『ジョーズ』では、アカデミー賞のオリジナル作曲賞を受賞。スピルバーグとはその後、『未知との遭遇』『1941』『インディ・ジョーンズ』シリーズなどと一緒に仕事をし、82年の『E.T.』と93年の『シンドラーのリスト』で、アカデミー作曲賞を得ている。以後、『ジュラシック・パーク』『プライベート・ライアン』『ターミナル』『宇宙戦争』『ミュンヘン』、最新作の『リンカーン』に至まで合計25本を担当した。新作は、2015年の12月に全世界同時公開となる『スターウォーズ:エピソードVII』。

■JWFC(主催) John Williams Fan Club,Japan

30周年を迎える世界で唯一のジョン・ウィリアムズ本人公認のファンクラブ。

87年にジョン・ウィリアムズ氏がボストン・ポップスと来日した時に氏より認められ、93年の3度目の来日公演では、ファンクラブのテーマを作曲していただいた。そのテーマは本公演でも奏でられる。年2回行われる本人指揮の本国(アメリカ)の公演を観賞するツアーは好評で、多くの会員が本場でのコンサーに酔いしれた。過去に行われた新日本フィル、東京交響楽団、関西フィル、仙台フィルなどのプロ・オケ主催によるジョン・ウィリアムズ特集コンサートでは、曲提案から告知、チケット販売、公演プログラム執筆に至まで全面協力し、公演の成功へ大きく貢献している。

■上山達典(指揮) Tatsunori Ueyama(Conductor)

5歳からピアノ、12歳からトロンボーンをはじめ。京都教育大学大学院教育学研究科心理学専攻修了。在学中に蔵野雅彦氏に指揮法を師事、また保科洋氏の指導を受ける。トロンボーンを松下浩之氏に師事。現在法政大学中学高等学校教諭。同吹奏楽部顧問。東大フィル・グラデュエイト・オーケストラ所属。クラシックのレパートリーだけでなく、昨年には映画音楽やミュージカルなど音楽を中心とするポップスオーケストラ Flamingo Apartment Orchestra を立ち上げ、指揮者を務めた。

■JWFCフィルムハーモニック管弦楽団(演奏) JWFC Filmharmonic Orchestra

今年(2014年)4月にこのコンサートの為に結成された、総勢120名からなる JWFC 専属のオーケストラ。

ジョン・ウィリアムズ作品はどの曲も演奏が難しいため、それ相応の技量が必要とされるが、それ故に優秀なプレイヤーたちが集結、もともとウィリアムズ作品に魅了されて集まった奏者たちなので、曲への意気込みはどのオケよりも高く、さらにこのオケよりも演奏に魂が込められている。



JWFCフィルムハーモニック管弦楽団



コンサート会場 MAP